



福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

第9号

発行日 平成21年8月11日

〒960-1295 福島市光が丘1番地 / TEL (024) 547-1111(代) ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

患者さんとそのご家族の皆様へ —院内感染と感染制御部の役割—



感染制御部長 金光 敬二

「院内感染」という言葉はみなさまよくご存じだと思います。たとえば糖尿病で入院したのに入院中に肺炎になってしまうことがあります。このような場合を院内感染と呼びます。院内感染はなくなればいいのですがどうしても皆無にはなりません。

それは、病院内ではさまざまな医療行為（手術や体の中に管を入れたりする）が行われているからです。また、高齢な患者さんや糖尿病のような感染に弱い基礎疾患を

お持ちの方が多くなっていることも関係します。

これらの理由でどうしても一定の割合で感染は起こってしまうのですが、感染のリスクを低減させる対策もわかってきています。院内でインフルエンザウイルスの伝播が起こればこれも院内感染です。このような場合、インフルエンザ患者を隔離して感染症が院内で拡がらないようにすることも感染制御部の仕事のひとつです。

福島医大では、これまでも院内感染を低減させるための努力をしてきましたが、2008年1月に病院内の組織として感染制御部が発足しました。感染制御部は診療科ではありませんが、すべての診療科と関わりを持っています。これからも感染制御部は、福島医大が院内感染の少ない施設と評価されるよう努力していきます。

第9号のなかみ

- 2ページ・・・ ○眼科の診療のご紹介
- 福島県病院給食連合研究大会 優良調理師表彰
- 2009年アメリカ気管食道科学会賞を受賞しました
- 県の「おもいやり駐車場利用制度」に協力しています
- 3ページ・・・ ○病気のみめ知識「熱中症について」
- 「きいてください 院長さん」投書箱から
- 病院ボランティア「けやきの会」りれー通信 7
- 4ページ・・・ ○市民公開講座～新しい脳神経外科治療 / 切らずに治るの?～のお知らせ
- 栄養士からアドバイス
- 夏バテを防ぐ食事について—

福島県立医科大学職員採用試験のご案内

平成22年4月1日採用予定の公立大学法人福島県立医科大学職員採用試験を次のとおり実施します。

- ◆ 試験を実施する職種、採用予定人数

診療放射線技師	2名程度
臨床検査技師	3名程度
精神保健福祉士	1名程度
- ◆ 試験期日
 - 第一次試験：平成21年 9月27日(日)
 - 第二次試験：平成21年11月 7日(土)
- ◆ 受験申込受付期間

平成21年8月3日(月)から平成21年9月4日(金)まで
- ◆ 受験案内及び受験申込書等

受験案内及び受験申込書等の提出様式については、ホームページからダウンロードすることができます。
- ◆ 受付窓口及び問い合わせ先

事務局総務課大学人事係
〒960-1295 福島市光が丘1番地
電話 (024) 547-1012

「教育」から「就職」までトータルサポート
ニチイだからできること。

教育事業

医療事務・
ホームヘルパー講座 他

医療関連
事業

ヘルスケア
事業

医療事務のお仕事に興味のある方は、どうぞお問い合わせください。

株式会社ニチイ学館 福島支店
TEL 024-524-2835

〒960-8031 福島県福島市栄町6-6 UNIXビル3F



マチのほっとステーション

LAWSON

ローソン福島県立医科大学附属病院店(エレベーターホール隣)
ローソン福島県立医科大学店(福利厚生棟内)

眼科の診療のご紹介

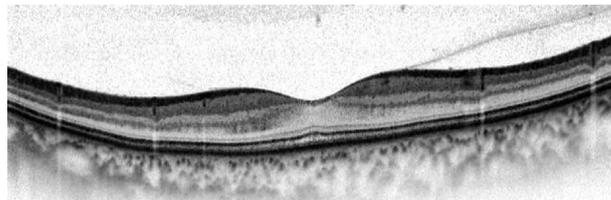
眼科学講座 石龍 鉄樹

眼科では、中途失明の主な原因である糖尿病網膜症、加齢黄斑変性などの網膜硝子体疾患を中心に診療を行っています。世界最先端と同レベルの診療を行うために新型の高解像光干渉断層計、走査型レーザー眼底鏡、微小視野計測装置など最先端の検査・診断機器をそろえています。治療面では、最新の手術顕微鏡、白内障・硝子体手術装置を用いて、より小さな切開創から手術が可能な低侵襲スモールゲージ硝子体手術も行っています。

皆様の信頼のおかげをもちまして、難易度の高い網膜硝子体手術は全国有数の件数を記録しています。加齢黄斑変性に対しては、従来有効な治療法がありませんでしたが、2004年には全国に先駆け光線力学的療法を開始しました。更に今年3月からは抗血管内皮増殖因子抗体の硝子体腔内注射を行っており、視力の維持回復に向け一人

一人の患者さんごとに最適な治療法を提供できるようになりました。また、新たな治療法の開発にも取り組んでおり、多くの全国規模の臨床試験にも参加し、研究機関としての責務を果たすために努力しております。

その他にも、白内障、緑内障、角膜疾患、小児眼科、斜視弱視、眼腫瘍などの専門領域において、地域の患者さんのニーズにあった誠実で良質な医療を目指して毎日診療に取り組んでおります。



最新の光干渉断層計で撮影した網膜断層像。
実際の厚さは約200ミクロン（約0.2mm）

福島県病院給食連合研究大会 優良調理師表彰

平成21年6月18日、郡山市ホテルハマツに於いて、記念すべき第50回福島県病院給食連合研究大会が開催され、当病院からは、渡部宏之主任調理師、菅野浩主任調理師の2名が優良調理師として表彰の栄誉を受けました。

渡部主任調理師は15年、菅野主任調理師は18年の長きにわたり、医大病院医事課栄養管理係に勤務し、病院調理師として誠実に職務を全うして患者給食に携わってまいりました。食事は治療の基本であるとともに、入院生活の中では患者さんにとって唯一の楽しみです。お二人にはこれからも健康に留意されてますますのご活躍を期待します。

2009年アメリカ気管食道科学会賞 を受賞しました

耳鼻咽喉科学講座 岡野 渉

近年、再生医療がテレビや新聞で取り上げられています。当講座では組織誘導型の人工材料を用いた気道の再生に成功しています。改良すべき点は気道内の上皮（器官の内腔などをおおう組織）が出来上がるまでに時間がかかることです。

私の研究テーマは、ウサギを使用し線維芽細胞（生物の結合組織を構成する細胞の1つ）を人工材料に付加して、気管の上皮化を促す技術の開発です。5月のアメリカ気管食道科学会で、私の論文「ウサギモデルにおける線維芽細胞含有気管」が、若手医師に贈られる“STEVEN DEAN GRAY RESIDENT RESEARCH AWARD”の第一席を受賞しました。

自分の研究が海外で評価され、とてもうれしく思いました。今後もより安全で確実な気道再建の研究を続けていきます。

県の「おもいやり駐車場利用制度」に協力しています

医大附属病院では、7月1日から県が実施している、おもいやり駐車場利用制度に協力しています。

病院正面の「体の不自由な運転手限定駐車場」（7台分）は、**福島県発行の利用証**をお持ちの方が利用できるスペースです。

ご来院の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

◆ 制度の概要

車いすマークがある駐車場に駐車する際に利用証の提示を求めることで、駐車場の適正利用を図り、必要としている方のスペースを確保する制度です。

県内のスーパーや医療機関、公共機関など約770の施設が協力し実施されています。

◆ 利用証の交付

「身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、高齢者、難病患者、妊産婦、けが人」のうち交付基準に該

当する方に利用証が交付されます。

◆ 利用証の申請窓口

県（各保健福祉事務所等）、各市町村、（財）福島県身体障がい者福祉協会

詳しくは下記までお問い合わせください。

問い合わせ先：福島県庁高齢福祉課（長寿社会担当）

電話（024）521-7197



救急科 池上 之浩

熱中症は体内外の熱によって引き起こされる種々の体調不良のことです。夏季になると熱中症で救急搬送される患者さんが急増します。

熱中症は熱産生量や熱にさらされた時間などによって、軽症から重篤なケースに分類されます。初期症状は気分不快や立ちくらみで、一時的に意識を失うこともあります。発汗量は多く体温上昇はありません。風通しのよい涼しい場所へ連れていき、安静にして水分摂取させます。もう少し進行すると、大量発汗のために体内水分と塩分が不足し、筋肉のけいれんが生じます。この段階では、水分とともに電解質を補給しなければならないので病院受診が必要です。さらに進行すると、

体内水分量不足から汗の量が減ってしまい体温調節機能が働かなくなるため急激な体温上昇が起きます。こん睡状態となり、治療が遅れると致命的なので一刻も早い病院搬送が必要です。

熱中症の要因として体内水分量不足があげられます。もともと水分量の少ない高齢者や体温調節機能や汗腺が未発達の乳幼児は、熱中症に陥りやすい傾向にあります。また、極端に暑い環境でなくても、湿度が高い場所では熱がこもりやすく熱中症になりやすいので注意が必要です。予防として十分な水分補給を心がけることが大切です。



「きいてください 院長さん」投書箱から

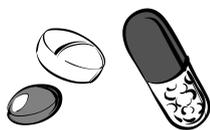


「きいてください 院長さん」に「ジェネリック医薬品（後発医薬品）を処方してほしい」という投書が寄せられました。

当病院では患者さんのご希望により、ジェネリック医薬品の処方をしております。ジェネリック医薬品の処方を希望される方は、診療の際、ご遠慮なく担当医師にお申し出ください。

なお、処方に当たっては、患者さんのお薬を正確に把握し、副作用が起こった際も責任を持って対処できるよう、ジェネリック医薬品の銘柄を病院として指定しています。

また、治療上の判断により、ジェネリック医薬品に変更しな



い場合や代替できるジェネリック医薬品が発売されていない場合など、処方できない場合がありますので、ご理解とご了承をお願いいたします。

※ジェネリック医薬品（後発医薬品）

- ジェネリック医薬品とは、成分や製造方法を対象とする特許権が消滅したお薬（先発医薬品）について、特許権のない医薬品製造メーカーがその特許の内容を利用して製造した、同じ主成分を含んだ医薬品のことです。
- ジェネリック医薬品は、承認までの手続きが少なく、開発や研究にかかる時間も金額も少ないので、先発医薬品に比べ低価格になります。

病院ボランティア「けやきの会」 りれー通信 7

けやきの会に加わって 伊藤 正博

若い時分に職場同僚の母親へ初めて献血して以来、日赤へ幾度となく行った献血を「大きな支え合いの循環」と捉えてきました。不惑を越えた頃から次第に「自分は社会から生かされている存在」と認識するようになり“時間的余裕ができたなら還元”を考えてきました。

退職後、自宅周辺の環境整備で数年を過ぎた後、昨春秋に初めて近所の児童養護施設で2か月間ボランティアしたのに続いて、今年1月から医大病院のボランティア仲間に加えて貰った次第です。

私の医大との係わりは患者として数回治療を受けたこと、医大開設に際して通信設備構築に関わる設計を指揮したこと、菊地学長と高校で同じクラスだったことがあります。

時間には余裕あるものの、経済からは袖にされ続け

る身には、自宅近くで貢献できることが医大病院を訪ねた唯一の理由でした。

とりとめの無い世間話が苦手、大言壮語が嫌い、しゃしゃり出るのが嫌い、の内実重視型なので、“他人を支えることは自分が支えられること”を信条に愚直に体を使ってコミュニケーションしていきます。

現代は「電柱が車にぶつかってきた」と言い張るようなギスギスしがちな世の中ですが、ささやかな行動で小さいトゲでも減らすことができればその大きさの分だけでも“暮らし易い社会”に変われるのではないかと期待するところです。

老いは老いなりに「逃げず、構えず、でしゃばらず。力を抜いて身の丈貢献」をモットーに螻蛄の斧と知りつつ振りかざしていきたいと思えます。



市民公開講座～新しい脳神経外科治療／切らずに治るの？～のお知らせ

最近の外科領域では、患者さまの負担をなるべく少なくする低侵襲治療が注目されています。われわれ脳神経外科の領域でも新しい治療方法が開発され、20年前では考えられなかった治療が少しずつ実現しつつあります。

9月13日(日)コラッセふくしまにて開催される市民公開講座では脳神経外科における新しい治療の一部をご紹介します。講演は3部で構成され、第1部では脳血管内治療、第2部では神経内視鏡手術、第3部では定位放射線治療についてそれぞれの領域のエキスパートによるわかりやすいお話があります。

脳血管内治療とは心臓の治療などで行われているカテーテル治療を脳の領域にも応用したものです。細くなり詰まりそうな血管や、動脈瘤(血管のこぶ)を治療します。神経内視鏡手術は、3～4mmの専用内視鏡を用いて、鼻の穴や、頭蓋骨の穴から、腫瘍や脳出血の手術を行います。定位放射線治療はガンマナイフに代表される、放射線治療を正確かつ効率的に行う装置での治療を指します。陽子線治療という最新の治療についてもご紹介します。聴講ご希望の方は氏名、電話番号を明記して、脳神経外科外来で配布する専用ハガキもしくはEメール(nouge45@fmu.ac.jp)でお申し込み下さい。

2009年9月13日(日)市民公開講座
新しい脳神経外科治療
“切らずに治るの？”

第1部 脳血管内治療 カテーテルで血管の中から脳の病気を治します。
 講師 宮地 茂 先生 名古屋大学大学院医学系研究科脳神経外科准教授

第2部 神経内視鏡手術 細い内視鏡で脳の手術をします。
 講師 渡邊 督 先生 福島県立医科大学医学部脳神経外科講師

第3部 新しい放射線治療 正確に病変だけに放射線をあてて脳の病気を治療します。
 ・ガンマナイフ治療
 講師 菊池泰裕 先生 総合南東北病院脳神経外科ガンマナイフ部長
 ・陽子線治療
 講師 不破信和 先生 南東北がん陽子線治療センター長

Eメール:
 nouge45@fmu.ac.jp

講演ご希望の方は専用ハガキもしくはEメールで8月28日までに志願申し込み下さい。先着300名で締め切らせていただきます。受講票をお送りします等のため、生姓、氏名、電話番号を明記して下さい。

於 コラッセ福島
 4階多目的ホール
 2009年9月13日
 開場 13:30
 講演 14:00～16:30

福島県立医科大学
 脳神経外科学講座



栄養士から アドバイス

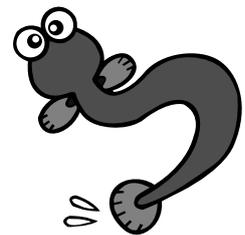
夏バテを防ぐ食事について

「石磨呂(いしまろ)にわれもの申す夏やせに、よしというものぞ武奈技(うなぎ)とりめせ」

これは万葉集の一節で、大伴家持が夏バテに苦しむ吉田石磨呂に対して詠んだ歌です。空調が普及した現代でも夏バテは頭が痛い問題ですが、夏の暑さに頭を悩ませているのは今も昔も変わらないようです。ではそんな夏バテを改善、解消するためにはどういった食事が良いのでしょうか。

暑い夏は、冷たい食べ物美味しい季節です。ついサッパリとしたそうめんや冷やし中華だけで食事をすませしてしまうこともあるでしょう。しかし、それだけでは体に必要な栄養は補えません。

夏バテ対策には、良質のタンパク質とビタミン類を十分に摂るのが良いとされます。タンパク質は体を作る源となり、ビタミンは体の調子を整えてくれます。これらは豚肉、レバー、納豆、豆腐、卵、いわし、ウナギなどに多く含まれています。豚しゃぶ、レバニラ、卵とじなどのメニューを、普段のお食事に取り入れてみてください。夏にウナギを食べるとい習慣も、実は夏バテを防ごうという昔の人の知恵だったんですね。



こころときめいてくらしかがやいて。

東邦銀行

ご利用・お問い合わせは **福島医大病院支店**

窓口営業時間: 平日午前9時から午後3時

電話 024-548-5331 (受付時間: 平日午前9時から午後5時)

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時～20時
 土日祝 9時～19時

アメリカシアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

